

(1) 総合 1版 (1963年2月2日第3種郵便物認可)  
 きょうの紙面  
 7 カジノ法、未明に成立  
 23 年金抑制18年度から  
 25 鹿島、アジア初決勝へ  
 22 岐阜ネットワーク  
 告別式の案内 [1]



■ニュース・情報提供  
098-865-5158  
■広告のお問い合わせ  
0120-555-5559  
■お問い合わせ窓口  
0120-39-5069  
■本社直通案内  
098-865-5256  
■读者相談室  
098-865-5656

# 琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第38761号

2016年(平成28年)  
 12月15日本曜日  
 [11月17日・先発]

発行所 琉球新報社 ©琉球新報社2016年  
 〒900-8525 宜野湾市天久保5番地 098-665-5111

# オスプレイ撤収要求



海軍に墜落したオスプレイは、名護市東海岸に墜落した。

米海兵隊の垂直離着陸機「オスプレイ」が13日午後9時半ごろ、名護市東海岸に墜落した。墜落現場には、名護市立の海ほたる公園で、隣接する鹿島、アジア初決勝へ

鹿島、アジア初決勝へ

岐阜ネットワーク

告別式の案内 [1]

カジノ法、未明に成立

年金抑制18年度から

鹿島、アジア初決勝へ

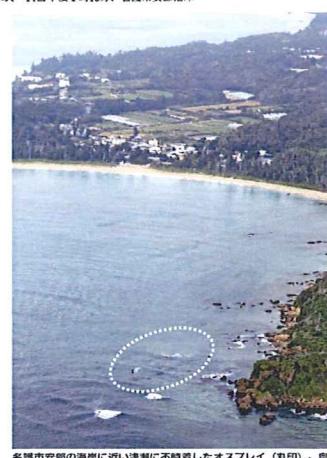
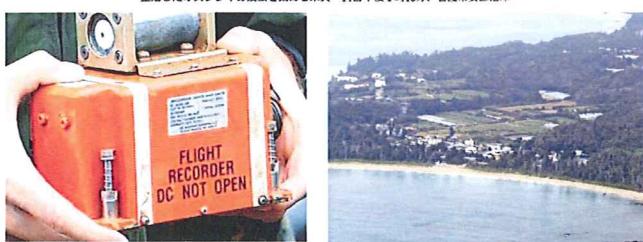
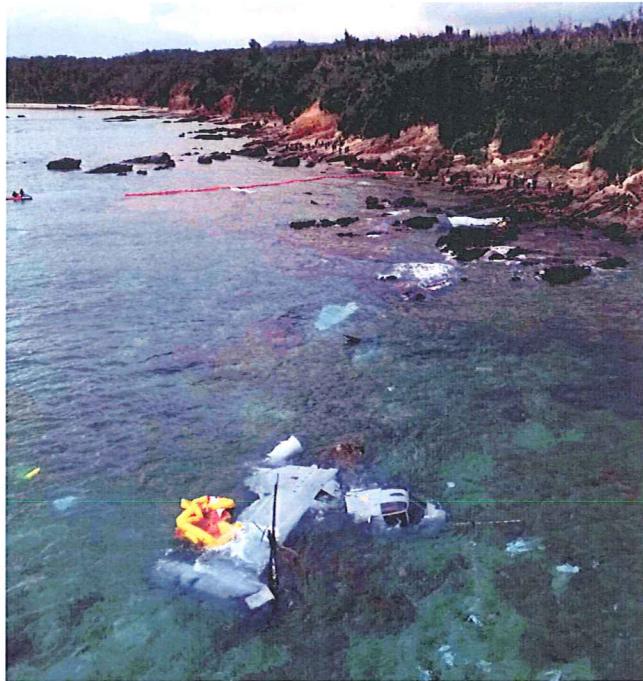
岐阜ネットワーク

告別式の案内 [1]

カジノ法、未明に成立

オスプレイ  
名護東海岸墜落

# 占領下の光景



出典：琉球新報（2016年12月15日）

【2017年1月27日 衆議院予算委員会】 日本共産党 赤嶺政賢 配布資料②



## 沖縄県名護市沖に不時着水したMV-22オスプレイについて

平成28年12月19日  
防衛省

防衛省は、今月13日に沖縄県名護市沖に不時着水したMV-22オスプレイ（以下、「オスプレイ」という。）について、事故直後から、在日米軍から情報提供を受け、継続的に様々な照会を行ってきたところ、本日までに確認された事故の概要、事故の状況及び原因、米側が取った対策並びに飛行再開に係る情報については次のとおりです。

### 1. 事故の概要

- ・ 2016年12月13日（火）、21時30分頃、沖縄県名護市東海岸の沖合で、米海兵隊普天間基地所属のオスプレイ1機が不時着水した。
- ・ 搭乗員5名は無事（うち2名は負傷したため入院したが、意識あり。1名は12月15日（木）に退院。1名は19日現在経過観察のため引き続き入院中）。

### 2. 事故の状況及び原因

- ・ 不時着水したオスプレイは、沖縄北東の海上で、他のオスプレイ1機とともに米空軍嘉手納基地所属MC-130X1機から空中給油を受ける夜間訓練を実施していた。空中給油訓練は、常に陸地から離れた海上空で行っているが、事故当時も陸地から数十Km離れた沖合上空で実施していた。当時の天候は、強風により良好なものではなかったが、夜間空中給油訓練に関する既定の条件の範囲内であった。
- ・ 空中給油機から出される給油ホースにオスプレイ側の受け手の給油管（プローブ）を差し込み、給油が行われた。給油が終了し、オスプレイのプローブとMC-130の給油ホースを分離させた後、21時5分頃、乱気流等により、給油ホースとオスプレイのプロペラのブレード（羽）が接触し、ブレードが損傷した。
- ・ オスプレイの空中給油に際してこのような接触が発生したのは、今回が初めてであり、詳細な原因につき、現在、調査が行われている。
- ・ オスプレイのブレードの損傷は回転するうちに大きくなり、飛行が不安定な状態となつた。パイロットの判断により、訓練地点から相対的に距離が近いキャンプ・シュワブを目的地として飛行する中で、地元への影響を極小化するため海岸沿いを飛行していたが、途中辿り着けないことが分かったため、パイロットが意図した地点である浅瀬に不時着水した。
- ・ したがって、本件事故は、搭載システム、機械系統及び機体構造を原因とするものではなく、空中給油に際して給油ホースとオスプレイのプロペラが接触したことによるものである。

### 3. 米側が取った対策

- ・ 日本におけるオスプレイへの昼夜全ての空中給油を一時停止。
- ・ その上で、搭載システム、機械系統及び機体構造についても、安全性を改めて確認するため、飛行を一時停止し、米側において普天間基地所属のオスプレイ全ての機体に対し、機体構造、電気系統、エンジン、油圧機構等の飛行安全上の重要箇所全てについて確認したが、問題は発見されなかった。
- ・ さらに、不測事態発生時における安全手順について、搭乗員の理解度を再確認するため、搭乗員全員に対し集合教育を行つた。

### 4. 飛行再開

詳細についての調査は継続中であるが、今般の事故の原因は、もっぱら空中給油中に当該航空機のプロペラのブレード（羽）が給油ホースに接触したことによるものであると考えられることから、次のとおり対処することとする。

出典：防衛省資料

- ・ 昼夜ともに空中給油の再開にあたり慎重かつ段階的なアプローチがとられる。空中給油は、集合教育、手順の確認及び地上におけるシミュレーションなどの手順が完了した後に実施される。
- ・ その上で、その他の飛行については、オスプレイの機体自体の安全は確認されたことから、12月19日(月)午後から再開する。

## 5. 日本政府の評価

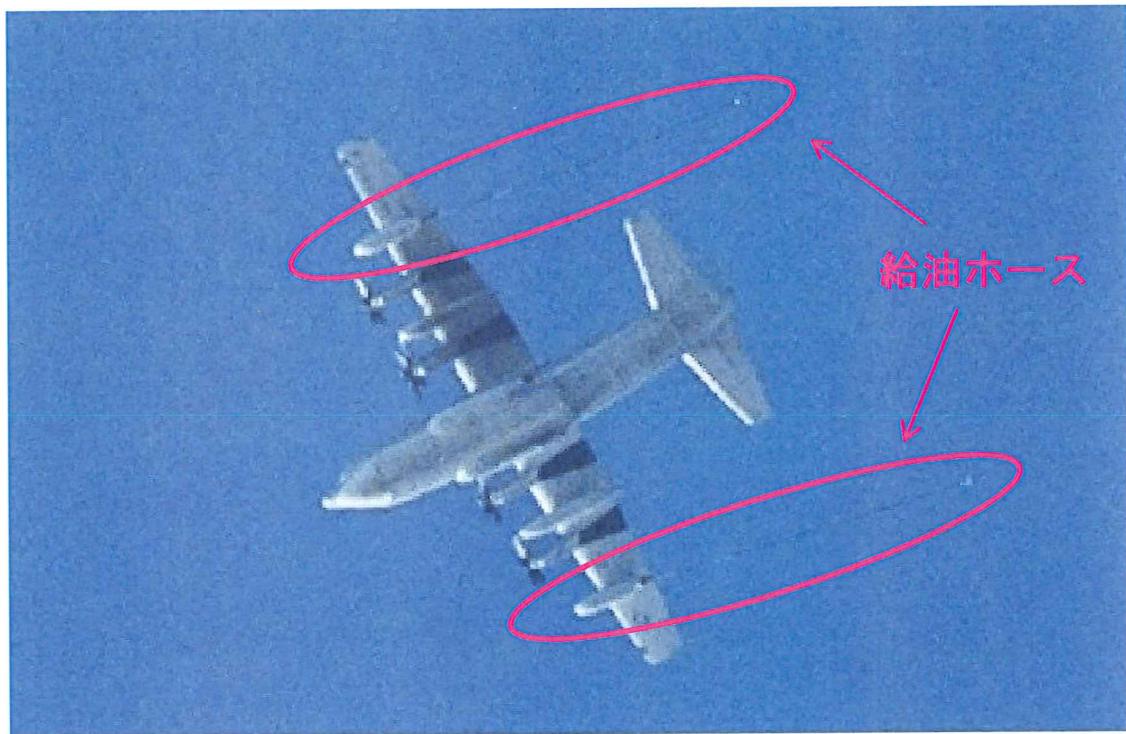
- ・ 本事故の状況・原因及び同日に発生した脚部故障事案への対応(別添参照)に関しては、これまで米側から得た情報等に基づき、防衛省・自衛隊の専門的知見に照らせば、合理性が認められる。
- ・ 米軍は、本事故の発生原因に関わる空中給油については、集合教育、手順の確認、地上におけるシミュレーションが完了した後に実施することとしている。
- ・ 米軍は、本事故がオスプレイの搭載システム、機械系統及び機体構造が原因ではないと考えられる中で、同日に別のオスプレイの脚部故障が発生したことも踏まえ、他の全ての機体について、脚部を含む点検を実施し、問題がないことを確認している。
- ・ 以上を踏まえると、本日19日午後から空中給油以外の飛行を再開するとしたことは理解できるものと考えられる。
- ・ 今後、空中給油の再開の前に、同種事故の防止のために米側においてとられた安全上の措置について、引き続き日本政府に対する具体的な情報の提供を求め、米側もこれを了承した。

以 上

出典：防衛省資料

名護市役所上空で空中給油訓練を行っていた米軍機

①給油ホースを2本出しながら飛行する空中給油機



②空中給油機と並行して飛行する戦闘機



2015年10月26日 名護市基地対策室撮影

【2017年1月27日 衆議院予算委員会】 日本共産党 赤嶺政賢 配布資料⑥

# 辺野古新基地の飛行ルート

